

マルチメディアやネットワークが注目されてきた背景

出発点は・・・

情報スーパーハイウェイ構想：NII(National Information Infrastructure)
(戦略的な構想)

93.2 NII構想発表
93.3 NII行動アジェンダ発表
93.12 ゴア副大統領演説
94.1 " "
95.5 GII(Global Information Infrastructure)を各国へ提案

NII行動アジェンダ(草案)

民間投資の促進
「ユニバーサルサービス」概念の拡大
新規アプリケーション促進
シームレス双方向型、ユーザ主導型運用促進
情報の安全性とネットワークセキュリティの確保
周波数管理の改善
知的所有権の保護
州や外国の障壁排除
政府情報へのアクセス拡大

アメリカ・ゴア副大統領の演説内容

目標

2000年までにすべての学校、図書館、病院等を結び教育・医療の高度化を促進する
今年は2005年。すでに結果は明らか?

アメリカ社会のすべてのメンバー間で双方向の通信が可能なネットワークを構築する。
(これが、インフォメーション・スーパーハイウェイの最終目標)

「ハイウェイ」のメタファー

1956年から76年にかけて20年間に連邦政府は1090億ドルをかけて全米を横断する
ハイウェイ網を建設した
州間高速道路網(inter states),フリー(無料)ウェイ(アイゼンハワー大統領)

インターネット版ハイウェイ => 情報スーパーハイウェイ

インターネットとの関係

インフォメーション・スーパーハイウェイ
データスーパーハイウェイの建設
・官民の協力の下に新しく構築
・電話・コンピュータネットワーク・インターネットTVの統合し、
「融合的に提供する提供する強力なデジタルネットワーク」

ナショナル・インフォメーション・インフラストラクチャ(NII)
政府の役割の封じ込め(民間主導での構築のガイド、ないしは側面からの援助)
全体像がわからない(確定しない)ままイメージ全体がふくらみすぎた

勝てる形で勝負する 新しく光ファイバーを引くよりインターネットを使う

「夢」と「夢の始まり」

そこに「インターネット」があった

既存のインターネットをベースにしたネットワークシステムが注目
インターネットの(爆発的な)普及
現在に至る

こうした「情報ハイウェイ」を構築しようとした背景

1990年代初頭のさまざまな事情・・・

- ・**軍需ハイテク構造不況**
1989年の冷戦の終結によりアメリカの経済を支えてきた軍需産業をベースとするハイテク企業の不況
- ・**ダウンサイジング不況**
- ・**対外政策**
 - ・ソ連の崩壊
 - ・いわゆる双子の赤字(財政・貿易)
 - ・強くなりすぎた日本

→ こうした時期に「クリントン・ゴア政権」が登場

大恐慌の時はTVA, → 公共投資の増額 でよかつたのだが...

21世紀のリーディングインダストリとなるものでなければならない。

(

日本には負けたくない(日本に先を越される！)
その頃(1990年) NTTの全国に光ファイバーを敷設する計画
VI&P(Visual Intelligent & Personal) 計画
～2015年

)

全米に高速ネットワークの増設

「ネットワークビジネスを開拓することによって、このハイテク不況を乗り切る」

「ニューエコノミー」の時代？

一方日本では...

政策上は10年?以上の遅れ
各種の規制の問題
今なおバブルの後遺症あり

問)

日本の景気回復には...どういう方法、どういうものが考えられるのか?
日本の強みとは何か?